

＋命を守る！ 子どもの 事故予防

かけふだ・いつみ
掛札逸美



Profile

心理学博士。NPO 法人保育の安全研究・教育センター代表。健康心理学、特に子どもの傷害予防と安全の心理学を専門とする。

実は深刻！ 「口に入るもの」の 危険

保育園や幼稚園では、遊び食べをさせません。「よい生活習慣を身につけるため」？ …いえ、まずは、遊び食べをしないと、のどに詰まらせる（窒息する）確率が上がるからです。笑っていると、途中で大きく息を吸いますね。そこがとても危険。泣いているとき、驚かされたときも急に息を吸いこみます。

たとえば、米国ではホットドッグをよく食べますが、ソーセージはかみ切った切り口が「円」で、気道に詰まりやすく取れにくいので、窒息死も少なからず起こっています。ホームパーティでホットドッグを口に押しこんでいた6歳児。その姿にみんなが笑い、この子も笑った瞬間、ソーセージが気道に詰まり、あらゆる努力もむなしく植物状態に近い重度の脳障害が残りました（2010年、オレゴン州）。

日本でも、プチトマト（熟す前の緑色のトマトも）、ぶどう、豆類、白玉など、さまざまな食べ物、玩具などで子どもの窒息が起きています。ある程度の大きさとかたさがあれば、何でも詰まる可能性はありますが、球形、切り口が円、つるんとしているものは特に危険です※1。詰まったものを確実に取り出せる方法はありませんから、特に危険なものは避ける、遊び食べをさせない、子どもがおもちゃなどを口に入れているときには驚かさず（叱らない）ことが大切です。

※1 日本小児科学会「傷害速報」に事例が掲載されています
(<http://www.jpeds.or.jp/modules/injuryalert/>)。



年上のきょうだいの玩具、行動にも気をつけて

お子さんが小さいうちは、玩具や食べ物に気をつけておいででしょう。でも、年上のきょうだいがいると、その子たちの玩具や小物が弟や妹の命を危険にさらす可能性もあります。たとえば、球や円のもの以外でも、シール状、シート状のものは、のどに貼りつく危険があります。

また、年上のお子さんが危険と知らずに行動して起こる事故もあります。生後5カ月の赤ちゃんに3歳のきょうだいイクラをあげてしまい窒息、脳に重度の障害が残ったケースもあります※2。上の子は「おいしいものだから、あげよう」と思っただけでしょうけれど…。

「危ないから、小さい子にはあげないで」と言っても、そのとおりには行動しない、できないのが子どもです。大きな後悔を残さないためにも、特に小さなお子さんがいるときは、口に入る大きさのもの、ちぎったりまるめたりしたら口に入るものを出しておかないようにしましょう。そして成長しても、ふざけて口に入れ、窒息する可能性があることをお忘れなく！

「これはたぶん大丈夫」ではなく、「これはもしかしたら危ない！」と、つねに考えてください。「万が一」は、いつ、どこで、誰に起こっても不思議はないのですから。

※2 『子どもの誤飲・事故（やけど・転落など）を防ぐ本』（山中龍宏著、三省堂、1999）参照